

月刊しばうら

2021年 2月号

牛肉営業部

＜1月の相場動向＞

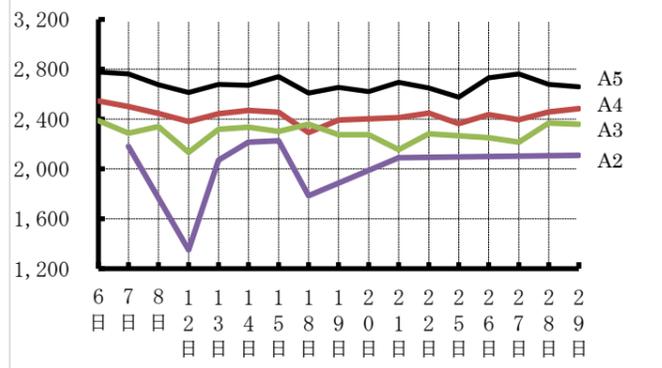
11 都府県に再び緊急事態宣言が発令されたこともあり外食は依然として厳しい状況が続く一方で、堅調な内食需要を背景に量販店や食肉専門店などは前年を上回る実績で推移している。

1月の枝肉相場は年末に比べれば下げているものの、大幅な下落とまではならず、補助事業の効果もあり、実需要に対しては相場を維持している。和牛は外食需要の低迷により、下げ基調が上位等級で目立ったのに対し、交雑牛では低位等級の方で引き合いが弱く、右肩下がりの展開となった。

和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,693円	-23円 99.2%	-213円 92.7%
A4	2,447円	+151円 106.6%	-203円 92.3%
A3	2,294円	+241円 111.7%	-93円 96.1%
A2	2,020円	+255円 114.4%	-104円 95.1%

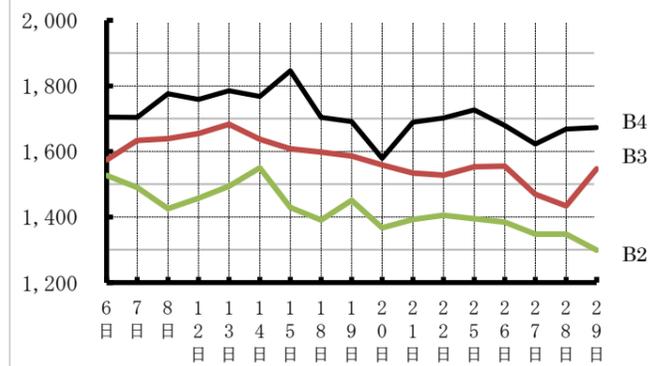
和牛去勢 日別相場表（1月）



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,711円	-19円 98.9%	-160円 91.4%
B3	1,582円	-41円 97.5%	-127円 92.6%
B2	1,418円	-75円 95.0%	-85円 94.3%

交雑去勢 日別相場表（1月）



乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	—	—
B2	939円	-20円 98.6%	183円 124.2%

＜2月の牛肉輸入量予測＞

財務省の輸入通関実績によると、2020年12月の牛肉輸入量は合計で前年比7.3%減の4万9,000tとなり11月とほぼ同じ水準となった。チルドは前年比9.8%増の2万3,647t、フローズンは同18.9%減の2万5,617tであった。

2020年の年間輸入量では、前年比2.4%減の60万396tで、3年連続で60万t台を維持した。主要国である豪州産が現地高によりチルドで8.8%減の11万4,000t、フローズンで11.7%減の14万9,000t、合計でも10.5%減の26万3,000tであったのに対し、米国産はチルドが1.4%減の12万5,000t、フローズンが13.8%増の13万t、合計では5.8%増の25万5,000tだった。

農畜産業振興機構によると2月の牛肉輸入数量は、前年比2.2%減の4万900tで、内訳はチルドが5.5%減の1万8,100t、フローズンは0.8%増の2万2,800tと予測している。

輸入牛肉通関量	12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,084	10,294 98.0%
	米国	11,790	8,908 132.4%
	その他	1,773	2,336 75.9%
	合計	23,647	21,538 109.8%
フローズン	豪州	12,291	12,747 96.4%
	米国	8,503	15,076 56.4%
	その他	4,823	3,770 127.9%
	合計	25,617	31,593 81.1%

出典：食肉速報 単位：t

＜2月の全国出荷頭数予測＞

家畜改良センターの個体識別情報によると、2020年11月末現在の全国飼養頭数は前年同月比1.2%増の391万7,663頭で、内訳は黒毛和種が同1.8%増の170万7,214頭、交雑牛は4.9%増の51万8,945頭、乳牛雄は5.8%減の24万9,784頭、乳牛雌は0.3%増の136万1,944頭となった。黒毛和種に加え交雑種も増加基調となっているのに対し、乳牛雄は引き続き減少傾向となっている。

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比2.6%減の7万5,900頭と予測している。品種別にみると和牛は0.1%増の3万3,500頭、交雑種は2.8%減の1万7,000頭、乳用種は6.4%減の2万3,900頭としている。

東京市場の2月のと畜頭数は6,600頭を予定しています。

＜2月の牛枝肉相場見通し＞

2月はもともと需要の低迷する時期であるうえ、景気の悪化が支出にも影響を及ぼすことが懸念される。緊急事態宣言が延長されたことで外食向けの和牛5等級は苦戦が予測されるが、4等級以下は堅調な小売り需要により軟調程度か。交雑牛は和牛に対し荷動きが鈍く弱含みの相場展開が予測される。

2月 牛枝肉価格予測

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600～2,700	B4	1,700～1,750
A4	2,350～2,450	B3	1,550～1,600
A3	2,200～2,300	B2	1,400～1,450
A2	1,950～2,050		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,050		
B2	900～950		

豚肉営業部

12月の全国と畜頭数は、前年同月比2.7%増の151万9,784頭。また、12月の豚肉通関数量は7万1,547t（前年同月比1.1%減）と前年同月をわずかに下回り、前月比では1.4%の微増。内訳はチルドが3万6,877t（7.0%増）と増加した一方で、フローズンが3万4,670t（8.4%減）と減少した。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
比	102%	99%	98%	93%	100%	97%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

12月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	17,710	108.0%	デンマーク	6,635	120.3%
カナダ	18,043	104.4%	スペイン	6,314	65.3%
メキシコ	1,123	145.8%	メキシコ	7,181	100.0%
			アメリカ	3,492	149.0%
			カナダ	2,995	98.8%
合計	36,877	107.0%		34,670	91.6%

単位：t

＜1月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	71,800	599	580	1,100
7日	74,900	561	515	1,076
8日	71,500	558	519	1,120
12日	77,600	553	510	1,087
13日	75,000	563	487	1,189
14日	76,500	511	457	1,027
平均	74,550/日			1,099/日

年明け6日の初せりは上物599円と高値でのスタートとなった。年末年始の補充買いや、3連休向けの手当てに加え、緊急事態宣言の発令による内食需要の高まりにより、相場は堅調な状況となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	74,600	497	438	1,101
18日	68,800	472	430	827
19日	71,200	480	441	1,053
20日	66,700	472	413	780
21日	73,800	437	397	843
22日	69,700	433	386	1,018
平均	70,800/日			937/日

全国的に気温が低下し、鍋物向けのスライス系商材の引き合いは強まったが、正月の反動からくる節約志向などの影響で、相場は軟調な展開となり、21日には上物が430円台まで下げる展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
25日	67,900	432	403	719
26日	70,700	422	398	949
27日	68,000	449	415	781
28日	70,100	450	421	816
29日	68,300	440	422	965
平均	69,000/日			846/日

全国出荷頭数は7万頭前後で安定してきたが、昨年末から高値が続いたことからの反動もあり、上物相場は400円台、中物相場は400円を割る日もみられた。

＜2月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による2月の肉豚出荷予測では130万7,000頭（前年比98.8%）と予測している。当市場の2月集荷予定頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約916頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万6,700t（同99.6%）、内訳は冷蔵輸入量が3万4,000t（同97.2%）、冷凍輸入量は3万2,700t（同102.2%）と予測している。

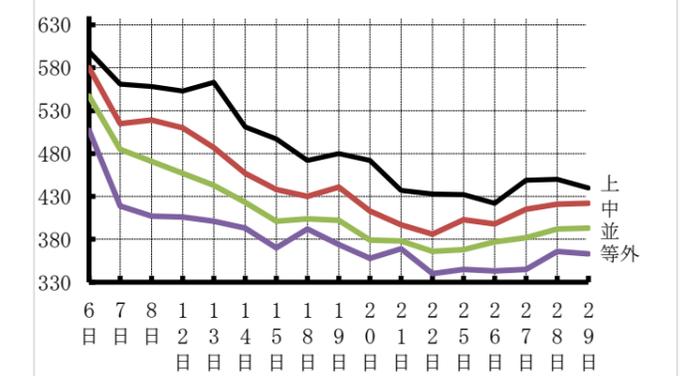
冷蔵品輸入量は、新型コロナウイルス感染症の影響による国内需要の減少に伴い買い付けが減少したこと等から、前年同月をわずかに下回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測する。冷凍輸入量は前年の輸入量が少なかったことから、前年同月をわずかに上回ると予測する。なお3ヵ月平均は、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

例年の2月であれば需要が低迷する時期となる為、相場は上げ材料に乏しく、落ち着いた展開となるのだが、今年は未だ収束しない新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言が延長されたことで、需要は量販店を中心に底堅く推移することが予想される。

また、供給面では昨年12月から今年1月にかけての出荷が早出し傾向であった為、2月下旬にかけて出荷頭数は減少傾向となる可能性が考えられる。その為、今後の出荷動向によっては相場が持ち直すことも考えられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は480円前後、中物平均価格460円前後の展開と予測する。

豚 日別相場表（1月）



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127